

令和4年度 アメリカ研修個人報告書

20A132 村上千裕

私は令和5年2月21日から3月5日までアメリカ薬学研修を行った。研修中には主に協定校である Western University of Health Sciences (ウェスタン大学)を訪問し、そのほかにもアメリカの病院や薬局など医療施設を見学した。二週間の研修を通して、特に印象的だった風邪、インフルエンザ用 OTC 医薬品についてまとめる。

● 昼用と夜用の薬について

アメリカのドラッグストア見学を行ったときに風邪やインフルエンザの薬のコーナーには昼用と夜用の薬がセットとして売られている薬が多く発売されていた。特に鼻水によく効くといわれているドキシルアミンは副作用として眠気を誘う作用があるため、昼用の薬剤には含まれておらず、夜用のみ使用されている。また、風邪をひいた際には眠りに付けないことがあるため、日中では副作用となるが、夜には眠りにつくために良い方向に作用する。

● 剤形について

アメリカのドラッグストアの風邪薬のコーナーには多くのシロップ剤が置かれていた。現地の薬剤師の方に「なぜ風邪薬の多くはシロップ剤なのか」と質問したところ「アメリカの場合、CMなどの影響もあって潜在的にシロップ剤の方がいいという人は多い。科学的な話では、錠剤は薬を溶かすまでに時間がかかるが、シロップ剤の場合吸収が速く、効果が現れるのが速い」とおっしゃっていた。二週間アメリカに滞在するにあたり、

ホテルでTVをつけるのと薬に関するCMは日本より多いと感じた。また、そのCMの中ではシロップ剤を用いているものもあった。



図 I : 昼用と夜用の風邪薬(シロップ剤)

● 特定の疾患と薬について

今回 OTC 医薬品について調べるにあたり一番驚いたことはドラッグストアにある OTC 医薬品の多さである。日本と違い、アメリカの医薬品には分類はなく、OTC 医薬品と調剤された薬の二つに分類される。

特に風邪薬の場合、特定の疾患を持った人のための風邪薬が販売されていた。今回見学に行ったドラッグストアには高血圧患者用の風邪薬(図 II 参照)と糖尿病患者用の風邪薬(図 III 参照)が販売されていた。

通常、風邪薬にはアルコールが含まれているが、これら二つの薬には含まれていない。アルコールに血圧をあげる作用や低血糖にする作用があるためである。また、宗教上の関係によりアルコールを摂取することができない人のためにも販売されている。また、フェニレフリンには血管収縮作用があることから高血圧患者用の風邪薬には含まれていません。そしてシロップ剤に含まれる砂糖は糖尿病患者用の風邪薬には含まれていない。



図Ⅱ：高血圧患者用の風邪薬



図Ⅲ：糖尿病患者用の風邪薬

● 感想

今回、約二週間の研修を通して、医療制度やアメリカでの薬剤師の在り方、薬学教育など様々なことを学ぶことができ、また病院や薬局の見学を通して日本の医療施設との違いについても学ぶことができた。これらの講義を実際ウェスタン大学で講義を行っている先生方から学ぶことができたことにも大きな意味があったと感じ、日本にいてだけでは得ることができないことを実際に見て、聞くことによって多くのことを吸収したと感じている。特に保険制度と薬剤師の在り方については、アメリカと日本とそれぞれメリット、デメリットがあると感じた。

また OTC 医薬品に関して、「アメリカ」という国柄が表れていると感じた。上記でも説明したように特定の疾患をもつ患者のため風邪薬や宗教上の理由から服用できない人のための OTC 医薬品が発売されており、様々な人種がいることを考慮されていると感じた。日本はまだ様々な人種や宗教などに対し馴染みのない国である。これから多くの移民や日本に住む外国人や観光に来る外国人が増えると考えたとき OTC 医薬品がどこまで様々な人種、宗教、疾患などに対応できるか、また薬剤師がそれらの知識を持っているかが大事になるだろうと感じた。

今回のアメリカ研修を通して、ウェスタン大学のワン先生、愛知学院大学の河原先生、東邦大学の高橋先生はじめ、この研修に関わったすべての人に感謝申し上げます。ありがとうございました。